

キタリズム インタビュー

まちのひとに学ぶ



橋本 公宏（はしもと・きみひろ）さん

靴の製造・修理工房「J.S.T.F.」代表。
〈住所〉〒111-0022 東京都台東区清川 1-27-6

靴職人になった経緯や思い、まちへの期待などを伺いました！

出身は台東区羽田。靴を作る前は、トラックの運転手や水道屋をやったり。28歳で靴職人を志し、お金を貯めて靴の学校に入って、師匠に弟子入りした。親族を合わせると、靴業界は4代目。J.S.T.F.のマークは橋本家の家紋なんだよ。叔父は靴の上の部分だけ作って、じいさんは底付け師。その前は靴を売るだけ。家族の中で、1足丸ごと作れるようになったのは俺が初めてだった。工房は羽田にもあったんだけど、20年くらい前に浅草で持つことにしたんだ。「山手は手が遅いけど上手、浅草は手が早くて数をこなすもの」なんて言われてたんだけど、浅草の方が道具と材料があって靴を作りやすかった。そこから工房はずっと橋場が清川にある。ずっと靴を作ってきたけど、自分が靴を作るのがうまいとは思っていないし、こういう靴をつくりたいという欲も特にない。

だからどんな靴でもリクエストがあれば作るし、お客さんとずっとなか対話しているかな。外にいる人とすぐに目が合う作りの工房にしているのも、オープンにやりたいから。こういう作りの工房はなかなかないと思うよ。職人は大体隠したがるものだからね。



工房の軒先をお借りして
コーヒー屋台を開き
ました。

この工房からまちを見て思うのは、この地域にもっと若いやつが来て、その上でそいつらが溜まれる場所が必要だということ。コーヒーの屋台なんかもどんどんあちこちでやったらいい。いろんな面白い建物があるんだから、今あるものとうまく融合させて、にぎやかなことができたならなんて思うね。

COVER PHOTO. ～今号の表紙～

大盛り上がりの餅つき大会！！

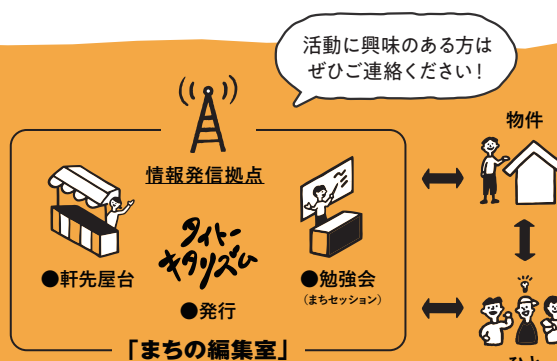
12月4日、東清南町会・浅草東清町会合同の「餅つき体験・抽選会」のイベントが3年ぶりに開催されました！晴天の空のもと、通りにはたくさんの方が集いました。子どもたちが餅をつく姿はとても力強く、抽選会には豪華賞品が並び、終始にぎわっていました。タイトーキタリズムはこちらのイベントに、「みんなの工作室」として参加。工作ブースを設置し、子どもたちの素敵なイラストでクリスマスツリーを彩りました。その後も工作室は、前号で「活用したい方を募集します！」とご紹介した物件をお借りして実施しました。サンタさんへイラストを描いたり、毛糸でポンポンを作ったり、大人も子どもも夢中になれる時間でした。参加していただいた皆さん、ありがとうございました！工作室を実施した物件は、引き続き活用したい方を募集しています。借りたい方と物件オーナーと一緒に楽しく活用できるよう、タイトーキタリズムもお手伝いしていきますので、小さなことからぜひご相談ください！



▲通りは車両が通行止めとなり、夕々のイベント開催を心待ちにしていた人でいっぱいになりました！



▲前号で掲載した物件でも、「コーヒー屋台」や「みんなの工作室」を実施しました！



タイトーキタリズムは、台東区・株HAGISO・株グランドレベルによって結成された「まちの編集室」が発行しています。まちの編集室は、情報発信・イベント企画・拠点づくりの3つを軸に、『空き家や空き店舗のマッチングサポート』『まちの人や出来事とのリアルな交流』を進めます。



【お問合せ先】
台東区 地域整備第二課
電話：03-5246-1366
ファクス：03-5246-1359
メール：chilki02.99t@city.taito.tokyo.jp

発行月：2023年1月
発行：台東区
編集：株式会社 HAGISO
株式会社 グランドレベル



今年もよろしくお願いします！

ゲスト
瀨川 翠さん
シェアハウス
「アンモナイト」大家

TOPICS!

- ・まちセッション vol.3
- ・キタリズムインタビュー！
橋本 公宏 さん（靴職人 / J.S.T.F.）

第2号 January.2023

「タイトーキタリズム」は、台東区北部地域を中心にまちとひと、風景や日常をまるっともっと好きになる、地域密着型メディアです。

台東区

<まちを一緒に魅力的にしたい人あつまれ！> 台東区では、北部地域、特に北部地区（東浅草2丁目、日本堤1丁目・2丁目、清川1丁目・2丁目、橋場1丁目・2丁目）で、空き家・空き店舗を活用したい不動産オーナーさん、この地域で事業にチャレンジしたい人を募集しています。

まちセッション!

台東区北部地域リノベーション型まちづくり

2022年11月21日、東浅草小学校で vol.3を開催しました!

台東区北部地域リノベーション型まちづくりトークイベント「まちセッション」。
まちで活躍するゲストの方をお呼びし、講演会を開催。タイトーキタリズムのメンバーの
台東区、宮崎晃吉 (HAGISO)、田中元子 (グランドレベル) とのトークセッションを通して、北部
地域における空き家活用の可能性について皆さんと一緒に考えました。



「小さなはじまり、まちへの広がり」

高校生で一軒の空き家を相続

遠い親戚が武蔵野市に空き家を持っていました。当時私は高校1年生で、バンドに夢中でした。「部室のように自由に使えるスペースがあったらいいな」と考えていたときに、親戚のおじさんが持っている空き家の存在を思い出し、交渉したところ使えることに。しばらくその家でバンド仲間と活動をしていたのですが、1年後におじさんは亡くなりました。私たちが楽しそうに使っていた様子を見ていたおじさんが、「家を託したい」と遺言に残してくれており、なんと私が空き家を相続することになったのです。



空き家を部室として使っていたときの様子

大学では建築デザインを専攻しました。勉強は楽しかったのですが、模型制作などでお金がかかってしまい、好きなことのためにやりたくないアルバイトをしなければいけないことがつらくなりました。そのような時に、空き家を部室のように使っていたころを思い出し、楽しく稼ぎたい気持ちしがシェアハウス (初代『アンモナイツ』) の始まりとなりました。

小さく始めた大家業が まちづくりになっていく

15万円ほどかけて、大学生のノリで家のDIYをしました。授業でたくさん模型を作っているけど、空間を作るのってこんなにお金がかかるんだと実感しました。空間ができてからも、予想通りにいかないことは多くありました。縁側を作ればさぞかしまちのひとが遊びに来てくれるだろうと思ったのに誰も来ません。「宗教なのか」「男女で住んでいるなんて」と近隣からクレームもくるようにもなりました。そんなある時、入居者の一人から「好きなことを仕事にしてみたい」と相談を受けました。内容は『プレゼント屋さん』。これに対し「使われていない縁側 (駐車場) でやってみたら?」と提案すると、彼女は

そのスペースで嬉しそうに小さなお店を始めました。大家が一言、「ここ使っていいよ」と言うだけで、人を幸せにできるのだと気づいた瞬間でした。



仲間たちとDIYして完成した、初代『アンモナイツ』



入居者の一人が縁側で始めた『プレゼント屋さん』

彼女が「いらっしゃいませ」と言っていると、「なにやってんの?」と地域のおじちゃんが縁側にやってきて、「この家は評

判悪いよ」と教えてくれました。実はこのおじいちゃんは町会長さんで、その後「あの子たちは未来ある若者だ、応援しよう」とまちの皆さんに言うてくださったみたいです。それからクレームがくることはなくなり、だんだんと賑わいが生まれるようになりました。私はその時、「使う人と集まる人がいて初めて、そこに縁側があったらいいんだ」と理解できました。その後、初代アンモナイツは、地域との関係に価値を感じてくれた事業者に売却することに。地域の価値が顕在化されることの重要性を実感しました。

まちづくりは「あの人の舞台」 をつくること

売却後は近くの物件を探して再びリノベーションを行いました。プレゼント屋さんも、『Norry!』というウエディングアイテムブランドに成長を遂げました。今度は彼女にスペースを貸すだけでなく、ブランディングなども手伝うことに。それらを通して、事業はデザインだけでなく、生産管理や発信を合わせてやらなければいけないこ

とがわかりました。私自身も大学卒業後に建築事務所を立ち上げ、空間のデザインだけでなく、お店のやりたいストーリーを汲み取って、お客さんへの伝え方を一緒に考えています。



『Norry!』のワークショップの様子

小さなことから始まった大家業は、まちへと少しずつ広がっていきました。人の顔が見える状況をつくりながら、彼ら彼女らのやっていることを素敵に彩る手助けをすること。それが結果的にまちが楽しくなったり、新たな仕事につながっていくのだと思います。まちは人ありき。自分や具体的なあの人のために、ぴったりの舞台をつくってあげることが、私にとってのまちづくりです。

vol.3
ゲスト



瀬川 翠 (せがわ・みどり) さん

(株) Studio Tokyo West 一級建築士事務所 代表取締役/シェアハウス『アンモナイツ』大家

平成元年東京都生まれ。大学生でシェアコミュニティ『アンモナイツ』を結成、自ら一軒家を改修しシェアハウスの運営を開始。2018年より親子も一緒に暮らせる2棟目のシェアハウスも立ち上げる。現在は活動をまちに広げ、吉祥寺〜西荻窪エリアで多拠点近接ネットワーク型のまちなかシェアリングエコノミーを運営。

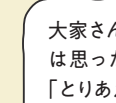
瀬川さんはシェアハウス『アンモナイツ』を吉祥寺で運営する大家さんです。今回は大家業が始まったきっかけから、多岐に渡る展開を見せるシェアハウスと、その広がりについてお話しいただきました。

みんなでクロストーク!!



井上
(台東区)

住人が幸せだと思えば地域が幸せであるということを教えてもらえました。瀬川さんはそれをまちに波及させる力がすごいです!



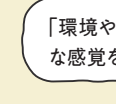
宮崎
(HAGISO)

大家さんが短期的な見返りを求めてしまうと、実際には思った通りに事業や活動が進まないこともある。「とりあえず楽しそうだから応援してみる」ことは大切で、いつか大きな変化につながるのだと思います。まちのおもしろさはそんな偶然を運んでくれること。駐車場で物は売っちゃだめでしょうといった思い込みはあるが、ただの家やただの店舗として捉えるのではなく「ここはなにができる場所なのか」と、枠をはずして考えてみると、その場所のポテンシャルが活かせますよね。



田中
(グランドレベル)

大家さんと空き家の話であったと同時に、楽しさは一人ではつくれないというお話でもありました。どなたから応援される必要がある。瀬川さんにとって、「楽しい」とは誰かがいること。それはまちそのものですし、こんなに個人的なまちの作り方があることを多くのひとに知ってほしいと思いました。



瀬川

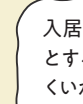
「環境やまちを自分自身で選択している」というリアルな感覚を常に持っていたいと思っています。

会場の皆さんからも様々な質問や意見をいただきました!



参加者の方

シェアハウスはどうやったらうまくいくのでしょうか。この地域には単身の高齢者がたくさんいます。



参加者の方

入居者が楽しいことを第一に考えています。投資対象とすることでコミュニティのことを考えられないとうまくいかないこともあります。どんな価値観の人と暮らしたいかを大家がしっかりと考えることが大切です。



参加者の方

目の前の人のために、自分から始められる身近なことをやっていく姿勢が大切なんだと思いました!

前回に引き続き、大家さんの目線からのまちづくりについて紐解いたまちセッションvol.3。誌面のお話だけでなく、吉祥寺でのウエディング事業や今後の展開まで、盛りだくさんの内容でした。小さな活動が連鎖していく過程に勇気もらった方も多かったのではないのでしょうか。会場では活用して欲しい物件の情報が早速寄せられ、すでに活動されている方の状況の共有など、様々な意見交換ができました。今年度のまちセッションは終了しましたが、引き続きタイトーキタリズムは、まちのみなさんと北部地域のまちづくりについて考えていきます!



見逃し配信はコチラから!
(期間限定配信)

